

「プレゼンテーション技術養成」 コース

「テキスト」

提供：情報戦略モジュール研究所

はじめに

コースの目標
コースの概要
カリキュラム構成と単元テーマ

コースの目標

『プレゼンテーションの天才といわれたボブ・ボイルン提唱する「ストーリー・ボード」を活用し、論理的な展開と相手を納得させる表現能力』を体得します。
(注)「ストーリー・ボード」はボブ・ボイルンが提唱するプレゼンテーション構成技術

修得する知識目標は

- ◆プレゼンテーションの態度とスピーチの技術を修得します
- ◆「ストーリー・ボード」に則りプレゼンテーションを論理的に展開する技術を修得します
- ◆プレゼンテーションと講師のレビューを通して、自己表現の技術を体得します

コースの概要

『プレゼンテーションの基礎知識と必要な技術の修得および表現の能力の向上を図る』構成になっています。

最終ゴールは、『意見や考えを明確にし、説得力があり論理的な展開によって、聞き手が行動を起こそうと願う**プレゼンテーションが出来る**』能力を修得することです。

『プレゼンテーションの基礎知識に加え、持参したテーマを演習を通して魅力的なプレゼンテーションに仕上げること』を強いとしています。

カリキュラム構成と単元テーマ その1

日付	単元	目的	研修項目	時間帯
	オリエンテーション			8:30~10:00
1日目	第1章 プレゼンテーションの基本	プレゼンテーションの目的と成功条件を理解する	1. プレゼンテーションの目的と内容 2. プレゼンテーションの構成	10:00~10:45
	第2章 プレゼンテーションの構成と実践	プレゼンテーションの意味、論理的展開の方法と聞き手への訴求力を修得する	1. プレゼンテーションの構成 2. 内容の整理 3. ストーリーボードの作成 4. プレゼンテーションの練習	11:00~12:00
	第3章 プレゼンテーション演習	プレゼンテーション演習①の参加と準備		12:00~12:30
		昼食		12:30~13:00
2日目	第4章 プレゼンテーション演習①	持参した資料によるプレゼンテーション演習①を行い、聞き手の反応レベルを確認する	1. プレゼンテーションの準備 2. プレゼンテーションの実演 3. コメンタリー 4. 質疑応答	13:00~17:00
	質疑応答と懇話会			17:00~17:30

カリキュラム構成と単元テーマ その2

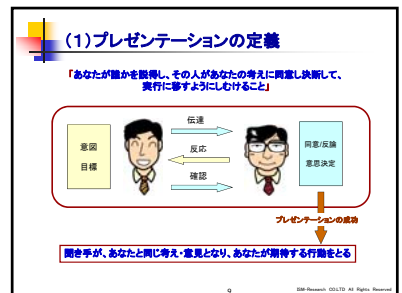
日付	単元	目的	研修項目	時間帯
2日目	第5章 本講プレゼンテーション演習	プレゼンテーション演習②のレビュー結果を踏まえてプレゼンテーションの構成と内容の修正	1. プレゼンテーション内容修正 2. 質疑応答	8:30~12:30
		昼食		12:30~13:00
2日目	第6章 プレゼンテーション演習②	プレゼンテーション目的、ストーリーボードに基いたプレゼンテーションの準備	1. プレゼンテーションの準備 2. 本講プレゼンテーションの実演 3. コメンタリー	13:00~16:45
	質疑応答タイム	質疑応答の時間と質疑応答を行う。		16:45~17:00
		最終まとめと振り返り		17:00~17:30

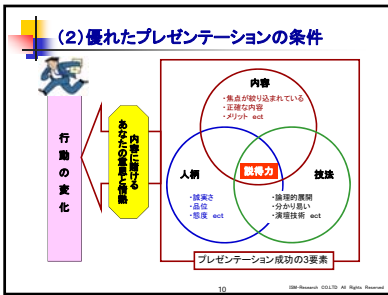
1. プレゼンテーションの基本

- 1.1 プレゼンテーションの目的
- 1.2 プレゼンテーションの特徴
- 1.3 行動を起こさせるプロセス
- 1.4 プレゼンテーション向上の要件

1.1 プレゼンテーションの目的

- (1) プレゼンテーションの定義
- (2) 優れたプレゼンテーションの条件





1.2 プレゼンテーションの特徴

特徴1: 口頭を主体に、視覚機器を活用する

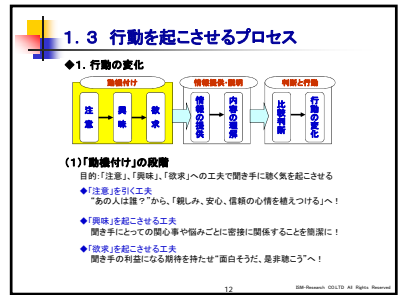
- 重要なポイントを明らかにする
- 効果的に聞き手の理解を促める
- 聞き手の注意を集中させる

特徴2: 話し手と聞き手が対面し、相互に即時的反応を繰り返す

- 対多数でも、フェイス・ツー・フェイスである
- 手や筆を使い、インシールド(非言語)コミュニケーションが出来る
- 聞き手の注意を集中させる

特徴3: 話し手、聞き手ともに、目的意識が高い

- 話し手も積極的に参加している
- 話し手はある意思や目標を持っている
- 聞き手も何らかの期待を持っている

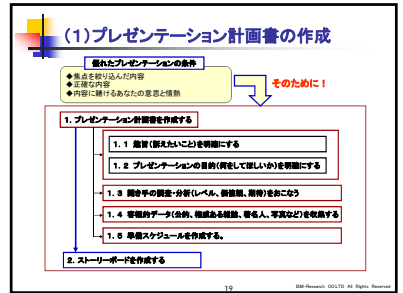


2. プレゼンテーションの構成と実技

- 2.1 プレゼンテーション計画
- 2.2 内容の組立て
- 2.3 オープニングとクロージング
- 2.4 プレゼンテーションの実技

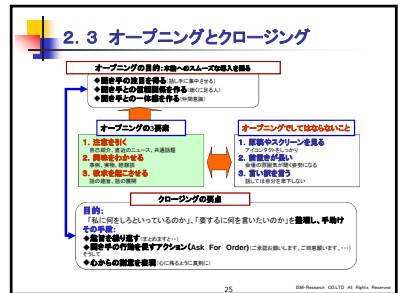
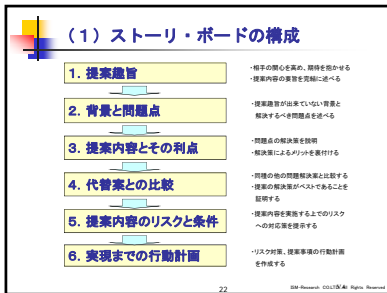
2.1 プレゼンテーション計画

- (1)プレゼンテーション計画書の作成
- (2)プレゼンテーション計画項目



2.2 内容の組立て

- (1)ストーリーボードの構成
- (2)ストーリーボードの特徴と留意点



2.4.4 プレゼンテーションの実技のまとめ

リハーサルですべてが決まる: 練習を何度も繰り返す

リハーサルを必ず行う

- ★目的: 自信をもって説明し、行動を促すために
- ★メリット: 本番で緊張してあがらない
- ★方法: 大きな声を出す(顔だけで奪っては駄目) / 誰かに聞いてもらう / 本番の会場で行う
- ★プレゼンテーション計書に組み込む
 - ①1回目: 1人で実施して、内容を覚えておくようになるまで
 - ②2回目: 聞き手のように、自分では気づかないアドバイス
 - ③3回目: 多くの人に、本番と同時間で、Q/Aを入れて

観客席

アイコンタクト	スクリーン
1. ある時点では1対1で 2. 1人1人輪流アイコンタクト 3. 全員に対しては2回アイコンタクト	1. スクリーンに落ちて見えない 2. ポイント線を指さし一掃する 3. 水文字にはハイパーリンク 4. スクリーンが見えなくなる場所にならない

32 ISM-Research CO.LTD All Rights Reserved

4. プレゼンテーション演習-1

33 ISM-Research CO.LTD All Rights Reserved

5. 本番プレゼンテーション準備

5.1 プレゼンテーション内容校正

5.2 質疑応答

34 ISM-Research CO.LTD All Rights Reserved

6. プレゼンテーション演習-2

-プレゼンテーション本番-

35 ISM-Research CO.LTD All Rights Reserved

参考図書

- 「自己表現の技法」(実教出版) 畑山浩昭、早川芳敬他4名の共著
- 「プレゼンテーション成功の秘訣」(TBSブリタニカ) ポフ・ポイラン著 今井茂雄訳
- 「説得力のある発表技術のすすめ」(ビジネス・オーム) 江村 潤朗著
- 「図解の技術」(日本実業出版) 久恒 啓一著

36 ISM-Research CO.LTD All Rights Reserved

おわりに

プレゼンテーション演習-1(3/26)

平成29年3月31日 第1版発行

著者: 情報戦略スキル研究代表 井上正和

発行所: 株式会社 情報戦略スキル研究所

37 ISM-Research CO.LTD All Rights Reserved